

第89回 縮小社会研究会



日時：2025年8月23日 19:00 ~ 20:30

所：オンライン開催 (zoom)

zoom の URL: <https://us02web.zoom.us/j/82966122588>

ミーティング ID: 829 6612 2588

人口縮小社会：日本のゆくえ

講師：伊藤公雄（縮小社会研究会理事、京都大学・大阪大学名誉教）

講演要旨：本研究会は、化石燃料をはじめとするエネルギーの過剰消費がもたらす地球規模の危機を「縮小社会（の必要性）」という視点から考察してきた。しかし、「縮小社会」といえば、一般には人口の急激な減少についての議論の方が多いように思う。日本社会がこの「人口縮小」を本格的に認識するようになったのは1989年。いわゆる1.57ショック以後のことだ。合計特殊出生率（一人の女性が一生のうちで出産する子どもの数の平均と考えていいだろう）が急激に減少し始めたのだ。人口を維持するにはこの数字が2.07前後必要といわれる。全カップルで2人以上の子どもを生めば、人口は再生産できるというわけだ。人口減少は生産年齢人口（15歳から64歳の現役世代）の減少につながり、労働力不足を生む。税金や社会保障費を支える人口が減るのに、日本社会は高齢者が人類史上始めて以来の超高齢社会になるといわれる。高齢者が増えるのに、それを支える現役世代が減るのだから、現役世代の負担は増える。国民負担率も3割台だったものが今やほぼ5割に近づいている（減税と社会保障費負担減が今回の参議院選挙の争点だったことは記憶に新しい）。経済規模も縮小する（それはそれでいいのかもしれないが）。何よりも、経済規模の縮小と労働力不足は、超高齢社会の進行に耐えられない。経済規模を縮小するにもソフトランディングが必要だ。また、労働力をどこかで補う必要がある。ここで、これも今回の選挙のテーマであった「外国人労働力」受け入れ問題が出てくる背景にある。人口縮小と過剰なエネルギー消費の抑制をどう繋げていくか、これも本研究会にとっての重要課題ではないだろうか。

講師の経歴：1951年生まれ。京都大学・大阪大学名誉教授。専門は文化社会学・政治社会学・ジェンダー論など。最近の主な著書に『＜男らしさ＞のゆくえ 増補版』（新曜社、2025年）、共著書に『人口縮小！どうする日本社会』（東京大学出版会、2025年）、『ジェンダード・イノベーションの可能性』（明石書店、2024年）など

参加登録：非会員の方は伊藤（itoida2@yahoo.com）まで氏名、メールアドレス、所属を連絡願います。

参加費：会員は無料、非会員は500円

一般社団法人 縮小社会研究会 e-mail: jimukyoku@shukusho.org HP: <http://shukusho.org/>